

令和8年度第1回 感染症発生動向調査協議会

令和8年4月15日

月番：加藤 達雄

1 前月の感染症発生動向について（2026年第10週～13週・3月）

＜全数把握対象疾患＞

- ・結核の新規報告は、若年者、高齢者の二峰性分布を示し、20歳代で最多の報告数であった。
- ・腸管出血性大腸菌感染症は4例の報告があり、O157が1例、O103が3例であった。
- ・梅毒は11例の報告があった。累計では、前年比80.8%とやや減少している。
- ・百日咳は、11例の報告があり、30歳代の1名以外は20歳未満であった。累計では、前年比59.7%と減少している。

＜定点把握対象疾患＞

- ・インフルエンザは第6週をピークに減少が続いている。
- ・急性呼吸器感染症も、インフルエンザの動向と同じ傾向で、第6週をピークに減少が続いている。
- ・ほかにも特に大きな流行はない。

2 検討すべき課題

- ・特になし。

3 情報提供すべき事項

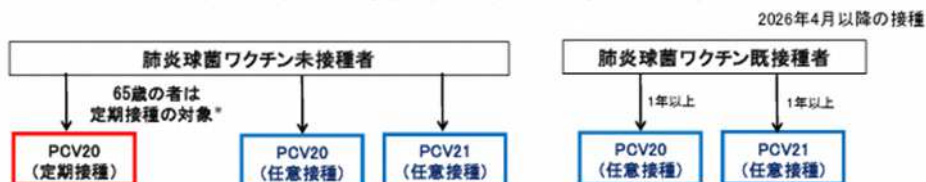
- ・特になし

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・日本感染症学会 緊急注意喚起「麻しん（はしか）」が世界・国内で増加しています 2026/3/18
- ・日本呼吸器学会 感染症・結核学術部会ワクチンWG/日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方（第8版 2026年4月1日改訂） 2026/4/1

図. 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方(2026年4月)

(日本呼吸器学会/日本感染症学会/日本ワクチン学会 合同委員会)



＜検討結果＞